

平成28年度決算をこう評価する

10月13日の本会議において、平成28年度一般会計決算について各会派から討論が行われました。その要旨をお知らせします。

区政の全般にわたり区民サービスの向上に向けた着実な前進が図られていると評価
自 民 党



平成28年度決算審査では、西川区長の4期目のスタートにあたり、その成果を確認した。区政の全般にわたり区民サービスの向上に向けた着実な前進が図られており、改めて、西川区政の成果を高く評価する。

財政指標はいずれも我が党が提案した水準の範囲内にあり、引き続き健全な財政状況を維持しているが、今後の数値の動向を注視したい。

防災分野では、防災行政無線の改善、水害時でのタイムラインの周知方法の検討等を期待する。防犯対策では、小学校の通学路における防犯カメラの設置、子ども110番の裏通りまでの拡大の検討等を求める。健康・福祉及び子育て支援では、医療と介護の更なる連携による地域包括支援システムの確立、たばこ対策を含めた健康寿命の延伸等の取り組み、企業主導型保育園の推進、児童相談所の早期設置に向けた人材の確保・育成や財源の確保等を要望する。

教育では、学校パワーアップ事業の更なる充実、国語力向上の取り組み等を要望する。道路や公園等の整備では、区道の電線地中化の更なる推進、区民の利用しやすいデザイン性を生かした魅力ある公園整備等を要望する。産業振興では、中小零細企業のICT化に対する助成制度の創設や支援、子育て中の女性や正規雇用を目指す若年者に対する就労支援策の充実等を期待する。

観光振興及び地域振興では、荒川遊園、都電とバラ、食文化等を積極的に活用し、商店街・町会・地域とより連携を図り、観光振興と地域の活性化を期待する。また、「(仮称)読書の街宣言」や読書活動推進条例の制定を要望する。環境では、蛍光管等の集団回収品目の早期拡大や「あらかわ

リサイクルセンター」を資源循環型社会実現の拠点にすることを要望する。

これからも、限られた財源を有効に活用できるよう、行政評価等による施策・事務事業の総点検等、行財政改革に積極的に取り組むことを要望し、賛成の討論とする。



▲都電とバラ

引き続き区民サービスの一層の向上に努力するよう求め、賛成

公 明 党



実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4つの指標は、いずれの数値も早期健全化基準を大きく下回る良好な水準を維持している。引き続き財政の健全性を確保しながら、必要な施策には予算を重点的に投入する等、更なる効率的・効果的な財政運営を求める。

我が党が区長に提出した「平成28年度予算に関する要望書」は、概ね予算化され執行されている。決算委員会では、仮称「中高層建築物等の解体工事に関する条例」の制定、読書通帳と学校図書との連携、運動場等の空き時間帯の有効活用、在宅育児家庭等に対する支援の場の拡充、成年後見人ネットワークシステムの早期構築等について要望や提案を行った。今後の予算編成作業に反映することを強く要望する。

また、就学援助の入学前支給は、区の状況や他の動向を踏まえ、適宜適切に実施するよう求める。

最後に、区民、議会、団体、事業者等、全ての

ステークホルダーにとって、真に有益な財務情報を提供し、予算決算審議での活用を期待する。

以上、数多くの事業や取り組みを積極的に進め、着実な執行がなされたものと高く評価し、引き続き区民サービスの一層の向上に努力するよう求め、賛成討論とする。



▲区内の運動場の様子

予算執行がバランスを欠いており決算認定に反対

共産党



決算認定に反対の討論を行う。反対する理由の第1は、コンパクト化を求めた複合施設建設整備費に43億円、小中学校1人1台体制のタブレットパソコン6億円等が目立つ点である。暮らし底上げの学校給食費の無料化、介護保険料の軽減、ふろわり200の回数増等を提案する。予算執行がバランスを欠いていると言わざるを得ない。第2に、西日暮里駅前、三河島駅前北地区の大規模再開発は見直すべきである。今求められるのは、防災対策の抜本的な強化、学校の教室不足解消、高齢者支援施設の設置等である。防災と福祉の街づくりに転換するよう求める。第3に、過度な基金の積み立てが問題である。子どもの貧困解消への経済的な支援等が可能である。最後に、待機児ゼロ実現のための対策、小学校についての就学援助の入学準備金支給早期実施を求める。また、区が設置したAEDの認証保育園等へのメンテナンス負担を改善すべきである。シルバーカー等の支給や助成の早期実施、精神障がいに対する区の認定、小規模事業所設備改善補助金の条件緩和等を求める。ゆいの森の運営、図書館の情報システムの改善が必要であると申し述べ、討論とする。



▲小学校の様子

チェック機関としての役割を認識し、審議に臨んだ

民進党



今9月会議の一般質問では、ダブルケアや多重介護等、団塊ジュニア世代、働く世代、子育て・介護世代が抱える課題への区としての認識を確認した。区民にとって最も身近な地方自治体だからこそできる取り組みを求める。

平成28年度予算は、「地域と区民が輝く予算」との方針のもと編成された。決算特別委員会では、この方針のもと、公正・公平に予算が執行されたのか、区民が納得・満足できる施策が展開されたのかをチェック機関としての役割を認識し、審議に臨んだ。委員会の中では、働き手の視点に立った消費者の問題や宅配ボックスの設置等について検討するよう取り上げた。

次年度予算編成にあたっては、委員会の中で申し述べた施策の取り組みを図ることを求め、決算認定に賛成の討論とする。



▲世田谷区役所に設置されている宅配便ロッカー

いま荒川区政に必要なのは、俳句のまちでもローズガーデンでもなく、区民がより良く食べていくことである

元気クラブ



南千住等への若年層流入で一見活気を呈するかに見えるが、衰退傾向の地域には対策が必要だ。

工場跡地にマンション開発し放題、狭小敷地に3階建て住宅建て放題、はては税金をつぎ込む駅前再開発。人口増に依存した街づくりをやめ、区民が豊かに暮らせる区政に転換せよ。今まで通りなら、区民は長期政権による停滞を感じるだろう。

価値が高まる吉村昭文学館は出身地の日暮里図書館と併設を。タブレットパソコンで中学生の読解力や日本人の知性は向上するのか？日本語こそ大事だ。除外を求める地権者が続出する西日暮里再開発は事業協力者のご意向か、区長の意志か？区有地限定に計画を変更せよ。災害時対応で評価が高まる清掃直営職員の雇用に舵を切る時期だ。



▲日暮里図書館

国益を常に考え、歴史の縦軸の中で、何をしっかり引き継ぐべきかという大局観を持つべき

日本創新党



学校教育全体を道具頼りで自律性の無い方向に劣化させるタブレットパソコンに過重傾斜している。日本人としての軸を育てる教育で誇りを持ち、自ら前に進んで学ぶ児童・生徒を育てることを怠っている。また、議会費では議員定数の24名への削減、議長、副議長の高額報酬の引き下げ等を求める。さらに、外国人学校保護者補助金を廃絶しない区の姿勢は何を護るべきかの本質が理解できていないか、それを見ないよう逃げているとしか

言えない。正面からの議論や説明が何一つなされていない。国益を常に考え、歴史の縦軸の中で、何をしっかり引き継ぐべきかという大局観を持たなければならない。その点が益々蔑ろにされた決算である以上、認定に反対する。



▲小・中学校に導入されているタブレットパソコン

区民への説明は正確であり、誠実に区民と向き合うべきである

市民の会



西日暮里二丁目北児童遊園の廃止をめぐる区の動きは、議会に条例提案した後に区民への説明会を行うという「質の低い区政」であった。公園をなくすことは区民の幸福度を下げる。区は、対策を考えるべきである。また、「緑の貧困＝区の緑や公園が少なくて当たり前」という連鎖を断ち切ろうと呼びかける。そして、緑化推進を掲げている区の努力を求める。現在解体しているピアホームの改修工事が割高になるとの試算がデタラメだと一級建築士が指摘している。また、二転三転するふれあい館の建て方の説明に区への失望が広がっている。区民への説明は正確であり、誠実に区民と向き合うべきである。以上の意見をつけて、決算の認定に賛成する。



▲西日暮里二丁目北児童遊園